

城里町の文化財さんぽ(一六)

町指定無形民俗文化財

ふるうちあおすぎ

「古内大杉ばやし」

指定年月日／昭和六二年四月二八日
所在地／城里町下古内
管理・所有者／古内大杉ばやし保存会



稲敷市阿波に鎮座する大杉神社は、昔から海上安全・豊漁祈願、また疱瘡(天然痘)除けの神として県外にまで広く信仰され、そこで演奏されるお囃子は「大杉ばやし」、「あんばばやし」等と呼ばれ、大杉信仰と共に各地に広まってきました。城里町下古内の宿と安渡に伝承された「大杉ばやし」も、前述の大杉信仰を源流としています。

町指定文化財の「古内大杉ばやし」は、昭和六〇年のつくば科学万博出演を機に、下古内に伝承されてきた「大杉ばやし」を、新たに「安渡ばやし」、「宿ばやし」、「新古内ばやし」の三つの曲にまとめたものです。

いずれの曲も、大杉信仰を象徴する「天狗の面」を竹竿の先に高く、かかげ、大太鼓・小太鼓・酒樽・笛・鉦をもって演奏する賑やかなものです。中でも「安渡ばやし」は、祭りの衣装に提灯を持つ子供達の踊りが愛らしいものとなっています。

昭和六一年には保存会が結成され、旧古内小学校の児童が中心となり「古内夏祭り」等で演奏されてきました。小学校閉校後は、古内地区に住む小・中学生や保護者等により伝承されています。

今年は一〇月二二日(土)午後一時から、常陸大宮市北塩子の「西塩子の回り舞台」(大宮公民館塩田分館グラウンド)で開催される「茨城県郷土民俗芸能の集い」での演奏が予定されています。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

湯上りの匂ひまとひて夕端居

仲田 まちゑ

月涼しライン下りの緩やかに

綿引 英子

海色の若布と和へて胡瓜揉み

鯉淵 寿美恵

蝉時雨子等の声待つ小学校

瀬谷 博子

生き様は千差万別蝉しぐれ

今瀬 多代美

山車の子の大揺れとなり曲りけり

森 静江

蝉時雨日光街道杉並木

飯村 昭子

蝉しぐれつばのまつ赤な野球帽

竹内 幸子

孫選手全国ライフル広島の夏

岩下 金司

静けさや山湖は夏の景をなす

田口 勝元

語り部と同じ世代の敗戦忌

寺門 孝子

川柳

いい気持老いた今ではマッサージ

富田 多蔵

ドックにてだれにもいせん胃炎だと

飯村 孝一

文芸しろさと

短歌

庭石に落つる青梅ジャンプして悲鳴微かに聞こゆる如し

所 美恵子

花しょうぶ娘が買いくれて息子が植えし来年の花夢みて生きむ

山形 式妙

ごぶさたの姉を思ほひ心にてわびつつ畑に汗流しをり

杉山 みちこ

月見草ひらく傍に葉を閉づる草ありやさしき夕風のなか

渡辺 千紗子

やわらかに青空に映ゆネムの花亡き人偲ぶ梅雨晴の日を

大森 久子

暮れなずむ里のお寺の鐘の音に野に棲む雉子のケンケンと鳴く

青柳 京子

在りし日の夫と旅せし佐多岬なつかしみつつテレビに見いる

枝 不美

赤沢江の荒れたる土手の草を刈る夫の頭上を白さぎの舞う

島 愛子

夏まつり笹につるせし短冊に幼の願い空への旅を

坪井 きよ子

ユニホーム色鮮やかに始まりぬ地球の裏の五輪大会

萩谷 登喜子

病苦より解き放たれて弟は面差し優しく微笑む如し

富田 佐智子

野良仕事家事は二の次忙しく働き過ぎし日々懐かしむ

菌部 光子

山が好き連なる峰にカラス舞う自然の恵み澄みきった空

富田 欽子

